

2021年11月

第134号

# ぱれっと



(株)北日本ベストサポート  
Tel. 018-883-1888

## 真鍋淑郎氏ノーベル物理学賞に輝く

10月5日スウェーデン王立科学アカデミーから、2021年のノーベル物理学賞に日本出身で米国国籍の米プリンストン大学上席研究員真鍋淑郎氏(90才)ら3人が受賞されると発表があった。ノーベル賞受賞者は日本出身者で29人目となる。(物理学賞では12人目) 真鍋氏は1931年愛媛県生まれ。東京大学理学部卒業。1958年に博士号を取得し渡米、米気象局に入り、地球物理流体力学研究所上席研究員や米プリンストン大学客員教授などを歴任。1997年から2001年まで日本の科学技術庁で地球温暖化予測研究領域長をつとめ、再び渡米しプリンストン大学上席研究員となった。

最初の大きな成果として1967年に「大気と気温の関係性に関する論文」を発表。大気を地上から上空まで続く「柱」のようなものと仮定し、日射や空気の動きと気温の変化の関係性を計算する手法を確立した。

二酸化炭素の濃度と気候との関係はあまり注目されていなかった時代にこのモデルを使って、二酸化炭素(CO<sub>2</sub>)を増やしてみたところ、温暖化が進む結果を得られ二酸化炭素の倍増で地上の気温が2度あまり上昇することを初めて示した。

さらに、真鍋氏はモデルを着実に発展させ、1989年には大気、海洋、陸上の相互関係を組み込んだ温暖化予測にも成功した。これが1990年の国連の「気候変動に関する政府間パネル」(IPCC)第一次評価報告書にも取り入れられ、今では欠かせない温暖化予測の基礎となっている。

2015年のCOP21で採択された国際枠組み「パリ協定」で世界の気温の上昇幅を2度未満に抑えることを目標とし、世界で約190カ国の地域が批准している。

日本でも昨年、2050年までに温室効果ガスの排出を実質ゼロとする「カーボンニュートラル」目標を掲げている。

真鍋氏は記者会見で「私が日本に戻りたくないのは『調和』の中で生きる能力がないから」と述べているが、2001年に米国へ渡る際には「所管が違う様々な研究機関との間の忍耐がいる調整業務、研究スタッフの不足、本音を率直に話さない日本独特の習慣」などを指摘していた。米国では好きなだけ研究に打ち込めた。「上司が寛大で、研究でもなんでもやりたいことができた。コンピューターも使いたいだけ使えた」と述べ、日本の科学者の置かれている環境に言及した。事実、日本では、毎年博士になる人が減少し、100万人あたりの博士号の取得者は米国やドイツ、英国、韓国の半分以下で、この10年間で10%以上減少している。「トップ論文」の数でも日本は20年前の4位から2018年には世界9位に転落、このままの状況が継続すると日本人のノーベル賞受賞者が途絶えかねないと危惧する声もある。頭脳を育てる国家予算の増額、環境の整備、研究員の待遇改善など総合的・抜本的に改革が求められている。

## ユーモア

ユーモアは人生を明るくし、広くし、かつ多彩なものにする。  
たしかにユーモアはひからびた世の中に何かしっとりとしたものを与え、生きる喜びを与えてくれる。

世の中には、ユーモアにさえふまじめなものを感じるような人もないではないようだが、ユーモアはわれわれに働くエネルギーを与えこそすれ、少しもふまじめなものではなく、きしむ世の中の油のようなものである。

ユーモアは心のゆとりなくしては出るものではなく、またかりに心のゆとりがあっても、よいユーモアは鍛えられた人生の深さがなくては出るものではない。

## 与える心

しっかり目を開こう。生まれて以来、我々は太陽や、植物や、空気や水など、周囲の全てに奉仕をされて生かされてきたのである。

もっとすべてを大切に捧げる心で生きよう。

求めるだけでは、人生はあまりにもさびしい。

だが与える心は人生に、ひそかな喜びをもたらし、明るい光を投げて人生を一変する。

無色の人生に七色の花を咲かせてくれるのである。

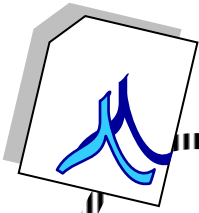
## 模倣と独創

一般に世の中の人々は独創力というもの突然空からでも飛んでくるかのように考えているが、決してそんなものではない。

これは古い知識を本当に消化をして自分のものとし、急がずあせらず精魂を一事に集中している時に出てくる場合が多いのである。

ただ如何に多くの物を知り広く物を見ても、何者にも囚われずに愉しみ乍ら進む余裕がなくては出てこない。まるで足を犬にでもかまれたかのようにあわただしく夢中で物を覚えるだけでは独創などというものは生まれない。見ることも学ぶことも必要であるが、他面それらのものにあまり囚われず、常に物事の真相を掴み取る落ち着きと深さがなければ駄目である。

模倣と言って笑う人があれば、それはむしろ笑いかえしてよい人間である。模倣の極致が独創だと言っても過言ではない。



## 手塚 治虫 (日本の漫画家・アニメ監督・医師)

- 1928年11月3日 大阪府豊中市に父・手塚榮(ゆたか)母・文子の長男として生まれる。
- 1945年7月 大阪帝国大学付属医学専門部に入学。
- 1946年1月 マンガ家としてプロデビュー、4コマ漫画「アマチャンの日記帳」連載開始。
- 1950年(22才) 「漫画少年」誌「ジャングル大帝」連載。
- 1952年 医師免許取得。「鉄腕アトム」を「少年」に連載。
- 1961年 奈良県立医科大学から医学博士の学位授与される。
- 1963年(35才) 日本初のテレビアニメシリーズ「鉄腕アトム」をフジテレビで放送開始。
- 1973年(45才) 関与する「虫プロ商事」倒産。多額の債務保証あり。「週刊少年チャンピオン」に「ブラック・ジャック」連載。
- 1978年(50才) 日本アニメーション協会初代会長に就任。漫画・アニメーションの作品で文藝春秋漫画賞。漫画協会特別優秀賞。小学館漫画賞・講談社漫画特別賞など数多くの賞を受賞した。
- 1989年2月9日 胃がんにより半蔵門病院で死去。享年60歳。日本政府から勲三等瑞宝章叙勲。日本SFクラブ主催第10回日本SF大賞特別賞受賞。

## オススメの *BOOK*



### 「硝子戸のうちそと」

作者 半藤 末利子 出版社 講談社

作者は1935年生まれ。作家の半藤一利さんの奥さん。夏目漱石の長女筆子の4女でもある。早稲田大学の芸術科、上智大学比較文化科を卒業。エッセイスト。

夫の半藤一利さんが転倒して骨折し、その後のリハビリでも回復せず病状は悪化の一途を辿る。その後を見送るまでの2年位のできごとや心の葛藤が中心となっているが、漱石との関わりについても書かれている。

なお、夏目漱石の随筆に「硝子戸の中」というのがある。60歳を過ぎてから文筆活動を始めた遅まきの作家だが、「彼のおかげで愛というものを知りました」と本の帯に紹介されている。若々しいものだ。



## 保険金等を個人が受け取る場合の税金

保険契約の締結により、保険契約者は保険料を支払い、万が一、保険期間中に保険事故が発生すれば保険会社から保険金を受け取るようになります。税法上、保険料支払いに関しては税負担の軽減があり、保険金受け取りに関しては保険料負担者との関係によって課税されることがあります。

### ◇保険金を個人が受け取る場合

火災保険の損害保険金や傷害保険の入院保険金、通院保険金など個人に支払われる損害保険契約の保険金は、損害てん補の性格を有することから非課税となります。但し、傷害保険や自動車保険(搭乗者傷害保険)における死亡保険金は、相続人等が保険金を受け取ると、金銭的に利得が生じることから課税の対象となります。この場合、保険契約者・被保険者・保険金受取人の関係により、次のとおり課税方法が異なります。

保険契約者 (保険料負担者)	被保険者	死亡保険金受取人	課税される税金
A	A	B(Aの相続人)	相続税(注1)
		C(Aの相続人以外)	相続税
A	B (保険契約者以外)	A	所得税(一時所得) (注2)および個人 住民税
A	B (保険契約者以外)	C (保険契約者および被 保険者以外)	贈与税

(注1)死亡保険金受取人が法定相続人である場合、「500万円×法定相続人の数」の額が非課税限度額となり、死亡保険金の金額がその範囲内であれば非課税となります。

(注2)所得税には、復興特別所得税を含みます。

### ◇損害賠償金を個人が受け取る場合

交通事故等で被害者となった個人が、加害者から受け取った損害賠償金(自動車保険の対人賠償保険金など)も、保険金と同様に非課税となります。また、被害者が死亡して、相続人が受け取る損害賠償金も非課税となります。

任意保険で受け取った保険金は個人の収入と考えられますが、事故によって受けた損害を補償するものであり、受け取った人に利益はありません。従って、交通事故で受け取った保険金に対して所得税はかかりません。

### ◇満期返戻金または契約者配当金を個人が受け取る場合

積立型保険契約において、保険契約者が保険期間満了時に受け取る満期返戻金および契約者配当金は一時所得として扱われ、原則として、他の所得と合算して総合課税されます。但し、一時所得として50万円の特別控除額が認められますので、保険金額がかなり高額な契約でない限り課税の対象とはなりません。

小さな負担で大きな安心が得られる保険は、様々なリスクに備えるための合理的な方法であり、欠かせないものになっています。

### 【編集後記】

朝晩めっきり涼しくなってきた。

味覚の秋、読書の秋などと言われる。

今年も干し柿作りに挑戦した。去年は天候によるものかどうかわからないが、カビにやられてしまった。

失敗は何事にもつきものだが、その失敗が次の成功へ結びつくことができたらいい。

ノーベル賞に輝いた科学者たちも多くの失敗を繰り返しそれを見事に乗り越えて栄光に辿りついたものと思う。

小さなことでも一歩々々を大切に歩んでゆきたいものである。

